弥生（やよい）　第685号

むなかた

目次

末社大神宮本殿遷座祭　3・2
沖津宮仮殿遷座祭　4
東京宗像会より絵馬奉納　4
文化財防火訓練　5
沖ノ島祭祀　6
神宝館だより・春季大祭案内　7
宗像大社歌会詠草　7
御造営奉賛者御芳名　7

よてす。黒といえば、一般的に縁起の悪い色とされる。動物では熊に烏など今日避けられる物が多い▼ところが、これが本来の考え方ではない。高貴な色の究極が黒なのである。公家や神職の装束、仏教の僧衣、キリスト教の聖職者の服に至るまで洋の東西を問わず黒は至高の色とされる▼「熊野」の地名は『古事記』によると神武天皇が熊と彼の地で出会う事に由来する。その熊は、熊野の山の荒ぶる神であった。引続き八咫烏が大和まで導き神武東征が成る。八咫烏は、太陽の黒点を象徴するものともされ、日神信仰につながるともいう。黒は神武天皇の昔から高貴な色、神を象徴する色であった▼平昌オリンピックのマスコットを見て驚いた。白虎と月輪熊だ。虎は、加藤清正公の虎退治の昔から知られている。驚いたのは月輪熊で、我が国の固有種と思っていた▼北朝鮮では、このオリンピック開催直前に軍事パレードを行ない始めた。ミサイル実験で近隣国やアメリカに脅威を持たせたかと思えば、アイスホッケーの南北合同チーム結成で融和ムードを作る。この余滴掲載までの間、さらに何が起きるものやら。真に腹黒い国である。（佐）

大神宮本殿遷座祭　入御後の祝詞奏上

沖津宮仮殿遷座祭　入御

沖津宮仮殿遷座祭　出御前

末社大神宮本殿遷座祭 並びに 沖津宮仮殿遷座祭斎行

去る二月二十一日、末社大神宮本殿遷座祭並びに沖津宮仮殿遷座祭が斎行された。

午前九時、沖ノ島勤務交代船「宝栄丸」に葦津宮司以下七名の神職が乗り込み神湊を出港。一同沖ノ島へ到着後、直ちに海中禊を済ませ、早速社殿へと歩を進めた。

先ずは末社大神宮本殿遷座祭を斎行。大神宮の神様は十一月中旬から沖津宮本殿を仮殿としてお鎮まりになられていたが、三ヶ月ぶりの御還座となった。

引続き、沖津宮仮殿遷座祭を斎行。これから始まる修理に備え、修復を終えた末社大神宮へ遷座した。両祭典ともに神社関係者のみの限られた人員による奉仕となり、静寂とした島内で粛々と祭儀は進められた。

現在の沖津宮社殿は、昭和七年に改造されたものが修理を重ね今に至っており、本格的な修理としては昭和三十九年以来となる。

沖津宮末社　大神宮　本殿遷座祭　式次第

これより仮殿（沖津宮本殿）

斎主以下祭員拝殿所定の座に著く

修祓

斎主一拝（諸員之に倣ふ）

斎主祝詞を奏す

斎主殿内に参入し諸員各其の位置に列立す（絹垣を張る）

遷御（此の間警蹕）

これより大神宮

入御（此の間警蹕　是より先　絹垣を張る）

斎主祝詞を奏す（此の間諸員磬折）

斎主玉串を奉りて拝礼（祭員列拝）

参列者代表玉串を奉りて拝礼（他参列者列拝）

斎主一拝（諸員之に倣ふ）

各退出

沖津宮　仮殿遷座祭　式次第

これより沖津宮本殿

宮司以下祭員拝殿所定の座に著く

修祓

宮司一拝（諸員之に倣ふ）

宮司祝詞を奏す

宮司殿内に参入し諸員各其の位置に列立す（絹垣を張る）

遷御（此の間警蹕）

これより仮殿（末社　大神宮）

入御（此の間警蹕　是より先　絹垣を張る）

宮司祝詞を奏す（此の間諸員磬折）

宮司玉串を奉りて拝礼（祭員列拝）

参列者代表玉串を奉りて拝礼（他参列者列拝）

宮司一拝（諸員之に倣ふ）

各退出

修復を終へ、麗しく整えられた大神宮

東京宗像会より特大絵馬奉納

昨年七月九日に「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界文化遺産に登録されたことを記念して、東京宗像会（会長：鍋島英幸氏）より絵馬が奉納された。

同会は東京にて宗像大社のみならず、宗像を応援する会として二年前に発足した。

奉納された絵馬は九十㎝×一二〇㎝の大きさで、樹齢三〇〇年を超える天然の木曽檜が使われている。

絵付けは、伊勢の神宮などにも絵馬を奉納している絵馬師の永崎ひまる氏で、「天然の檜に絵付けをするのは苦戦した」「宗像の自然の壮大さ美しさを表現することにこだわった」また「絵馬師として宗像三女神を敬う気持ちに素直に向き合い筆を進め、宗像大社の御祭神の導きにより、最高の絵馬が完成したことを嬉しく思う。」と語っていた。

また絵馬の裏面には賛同者約一〇〇の名前が書家の坂田紅陽氏により揮毫されている。

奉納式は昨年の十月二十七日辺津宮にて行われ、鍋島会長以下二十名が参列し正式参拝の後、儀式殿にて葦津宮司より感謝状の贈呈を行った。

現在は多くの方にご覧いただけるように神宝館のロビーに展示している。

また、二月十二日には第四回東京宗像会が東京大神宮マツヤサロンにて開催され、葦津宮司が講演をし、鍋島会長より絵馬奉納の報告、絵馬師の永崎ひまる氏は絵馬製作の裏側を参加者へ語っていた。

文化財防火訓練を実施

文化財防火デーの一月二十六日、当社で四十四回目の文化財防火訓練が、職員、宗像地区消防本部、宗像市消防団から約百二十名参加のもと実施された。

訓練は第二駐車場から出火の想定で開始され、巫女と女性消防団によるバケツリレーや消防車による放水など、実践さながらに行なわれた。

貴重な御社殿・文化財を守り伝えるため、職員の防火意識を高める良き訓練となった。

沖ノ島祭祀 5

― 祭りと鉄と古代のイノベーション ―

國學院大學　神道文化学部教授　笹生 衛

宗像・沖ノ島の祭祀は、四世紀後半、巨大な銅鏡に代表される貴重な品々を捧げて始まった。この後、神への捧げ物は、時代とともに変化していった。

時代が五世紀になると、捧げ物の中心は銅鏡から鉄製品へと変化した。その様子を伝えるのが、二十一号遺跡。四世紀後半の遺跡の南側、F号巨岩の上にある遺跡だ。巨岩の上に岩を並べて二・八メートル×二・五メートルの四角い区画を作り、その中央に長さ一・一メートル、幅八〇センチ、高さ五〇センチの岩を据えていた。発掘調査では、その区画内から、神に捧げたと考えられる品々が集中して出土した。

この遺跡の出土品では鉄製の武器・武具、農具・工具が目立つ。武器・武具には、剣が十本以上、刀は十八本以上、鏃が二十本以上、冑が一点ある。農具は鎌が二点。工具には刀子（小刀）十六点、鉇（やりがんな）三点、斧七点、鋳造鉄斧二点がある。また、神祭りのための鉄製雛形（模造品）の刀が十四本以上、斧は九点ある。さらに、鉄の延板（のべいた）「鉄鋌（てってい）」六枚が加わる。これに対して、銅鏡は、銅鏡の破片が四点、素紋鏡（祭祀用の小型銅鏡）一点と、四世紀後半の十七号遺跡に比べると極端に数は少ない。五世紀、宗像の神への捧げ物として、銅鏡に替わり鉄製品と鉄そのものが、大きな意味を持つようになっていた。

なぜ、鉄が重要だったのか。ここで五世紀当時の日本列島の状況を考えなければならない。鉄は、現在と同様、人々の生活・生産、または戦争で欠くことの出来ない金属であった。しかし、当時の日本列島内では、まだ独自に鉄を生産できず、朝鮮半島から輸入しなければならない貴重品だった。ここに現在と異なる鉄の意味がある。

東国、千葉県木更津市の千束台遺跡の祭祀遺構（祭りの痕跡）からは、宗像・沖ノ島から出土したものと同じ鉄製模造品の斧を始め、まとまった鉄製品と鉄鋌が出土している。五世紀、列島内各地の神祭りの場で鉄製品や鉄そのものが捧げられていた。

五世紀には、日本列島へと朝鮮半島から様々な最新の技術がもたらされた。その代表が、新しい鉄加工の技術であり、多量の鉄も新しい技術とともに列島内には持ち込まれるようになっていた。鉄と鉄製品は、五世紀当時の最新技術を代表するものとして神へと捧げられたのだ。特に多くの鉄製品を捧げた五世紀の宗像・沖ノ島祭祀は、古代の技術革新「イノベーション」を象徴しているのである。

21号遺跡鉄鋌（5世紀）

神宝館だより⑪
八万点ノ国宝収蔵

宗像市田島に鎮座する辺津宮。その社殿の背後、南南西にある丘陵は当社社家では古来宗像三神降臨の聖地と伝わる。南側の高い方の丘陵を上高宮、その北側に連なる一段低い丘陵を下高宮という。

上高宮は、江戸時代の地誌類に、同時代初期、石筥(石棺)と鏡や太刀などが発見されたとの記録があり、大正十五年(一九二六)の調査では箱式石棺と鏡、銅鏃や鉄刀などの武器、勾玉、蕨手刀子、短甲など豊富な遺物が確認され、古墳時代中期頃の古墳として知られる。下高宮の頂上は約三百坪で、上高宮と同じく小祠があったが、延宝三年(一六七五)、福岡藩主黒田光之が当社摂末社を整備して辺津宮社殿を囲む形で合祀した際、ともに社殿のそばに移された。その後、畑地であったのを昭和十八年(一九四三)に宗像大社復興期成会が買収し、戦後、当社に奉献されて露天の古代祭祀場の姿に復元された。現在、高宮祭場として知られ、毎月一日と十五日に月次祭を斎行している。

下高宮の丘陵上の台地からは、大量の須恵器・土師器の破片、滑石製臼玉、土製丸玉が出土しており、戦後、滑石製人形二点、馬形一点も発見された。さらに下高宮の西南斜面、医王院の裏、俗称寺下という場所から二カ所相接して、滑石製臼玉・平玉(円板)各数千点、須恵器・土師器、鉄片とともに滑石製舟形三点が出土している。下高宮やその付近で発見された滑石製品は、沖ノ島一号遺跡や大島御嶽山遺跡出土のそれと酷似することから、八世紀には確実に下高宮で祭祀が行われた、つまり、宗像三女神への祭祀が沖ノ島、大島、田島の三カ所で行われていたとわかっている。(福)

下高宮発見の滑石製人形

医王院裏発見の滑石製舟形

春季大祭 ご案内

一年に一度、虫干しを兼ねて宗像大社で所蔵する神宝や古文書を一般公開していた「保存会」に始まるお祭りです。農家の種蒔きの時期にあたり、一年の五穀豊穣を祈って「主基地方風俗舞」と地元中学生による「浦安舞」が奉奏されます。多くのご参列をお待ち致しております。

三月三十一日(土)
十七時　総社地主祭
十八時　宵宮祭

四月一日(日)
十一時　春季大祭(主基地方風俗舞奉奏)

四月二日(月)
十一時　春季総社祭(浦安舞奉奏)
引続き　高宮祭、第二宮第三宮祭
宗像護国神社春季大祭

第679回　宗像大社歌会詠草

■大西晶子選　■毎月25日〆切

半袖で正月迎へ沖縄は厚着で過ごす寒き宗像　秋吉　嘉範

気候の違いを服装で捉えた作者。対比を際立たせ〈半袖で正月迎える沖縄と帰宅し厚着で過ごす宗像〉としては。

高々と夫の手製の凧あがる佑と手たたきぬ家の田んぼで　山本　静子

佑さんはお孫さんか、楽しい家族の時間が見える。三・四句〈凧上がり～手たたく〉に。

平和の和名につけられし宿命を強く感じて生きてゆかねば　佐々木和彦

北朝鮮との間に緊張が増したり、不穏な空気がある。今こそ平和の大切さを語る作者のような人が必要だ。

百越えの母の命の温き手の余韻のままに家路をたどる　北野カズミ

母の手のぬくもりに安らぐ作者。初～三句〈百超える母の両手のぬくもりの〉としたい。

小寒があり大寒がありましてめでたし芽出たし春遠からじ　山﨑　公俊

言葉をくりかえすリズムが面白い。初句～三句を〈小寒を過ぎて大寒となりまして〉と。

通勤時平地に雪降り右折するトラックとの車間を長くとりたり　萩原　勉

雪の日の運転は慎重に。〈右折するトラックとの車間長くとる平地に雪降る通勤時間〉。

元旦を淡き色もつ丸薬のわが手にありて一気に飲み下す　森　龍子

元旦の祝いの卓でも薬は忘れられない現実。〈元旦の祝いの卓で色淡き丸薬いくつ一気にのみぬ〉。

ゆっくりと南へ動く雲眺め空は暮れゆく三ヶ日かな　本田エリナ

ゆったりとした言葉の運びが良い。上句と下句で主語が異なるので、空にし三・四句〈雲浮かべ空の～〉と。

いまひとつ絞りたりない布巾絞り姑めきたる物言いになる　吉崎美沙子

作者はお姑さんの立場で口にした言葉に自分ではっとしているのだ。布巾の具体が良い。

鵲は尾っぽふりふり元旦の庭を番でよちよち歩く　大和美由紀

庭の番の鵲を可愛く思う作者。二句は少し子供っぽいので尾の特徴を入れ〈長き尾ふりつつ〉などと。

◆選者詠

蔵びらきしたる酒屋に杉玉のいろ青々し匂ひたつまで

帰りきて石のさむさのキッチンでまづ湯を沸かす青き火ともし

御造営奉賛者御芳名

（平成三十年一月）
（順不同・敬称略）

二〇〇、〇〇〇円

福岡市　澤田　利美

一〇、〇〇〇円

足立区　多良　直也・美穂
宇佐市　松尾　裕一
北九州市　土谷　ゆみ
北九州市　赤木　慶三
中間市　森　伸介
宗像市　ハナダ写真館

五、〇〇〇円

諫早市　川内　由美
宇都宮市　河野　裕子
遠賀郡　出水　俊男
糟屋郡　安川　大輔
川崎市　髙柳　康彦
北九州市　麻生奈緒美
北九州市　堀江　和彦
古賀市　梶山　豊
佐倉市　松田　香
中央区　小原　真弥
福岡市　松本　寿一
松戸市　番場　裕之
宗像市　﨑本　盛親
北九州市　脇山　道子

三、〇〇〇円

糸島市　国分　一美
大阪市　福地　昭義
別府市　藤田　美代

二、〇〇〇円

大阪市　藤田　許代
大牟田市　徳永　里實
尾張旭市　西村　和子
春日市　園田幸市郎
菊池郡　佐藤　勝洋
宝塚市　兼田　裕之
田川市　大野　康司
八女市　鍋田　泉男
度会郡　奥村　俊巳

裏表紙の写真：奈良三彩小壺

奈良時代の複数色を用いた多彩釉薬器を奈良三彩という。

沖ノ島出土のものは、たおやかな薬壺形の小壺で、蓋五点、身十二点と点数が多く、大和朝廷の強い崇敬を表象する。国家祭祀のために中央で焼かれて配布されたのだろう。

むなかた
弥生（やよい） 第685号
2018年3月1日発行（月刊）／宗像大社　〒811―3505　福岡県宗像市田島2331　電話（0940）62―1311（代）　http://www.munakata-taisha.or.jp/

3月 まつりごよみ

1日	総社月次祭 引続き　高宮祭、 第二宮第三宮祭、宗像護国神社祭	午前11時
4日	氏貞公墓前祭 於＝宗像市上八　氏貞公墓前	午前11時
15日	総社月次祭 引続き　高宮祭、第二宮第三宮祭	午前11時
19日	松尾神社祭	午前11時
21日	春季皇霊殿遙拝式	午前10時
31日	春季大祭宵宮祭	午後６時

編集後記

昨年七月に世界文化遺産登録の決定を見て、海外からの参拝が目立ってくるようになってきた▼予想していなかったわけではないが、立ち入り禁止区域への侵入やゴミのポイ捨て、マナー違反が顕著である▼「人の振りみて我が振りなおせ」▼神社は神域に一歩入ればそこに言葉は要らない、空間信仰の場でもある。それを感じるかどうかは当人次第であるが、もう少し心を静かにご参拝いただければと思う▼イコモスの厳しい勧告後、それを覆す作業は困難を極めたことを思い出す▼日本人の精神的インフラである神道…▼やはり文化が違う方々に伝えることはそう容易ではないと感じた。（黒）

宗像大社